

カメルーンと大分県旧中津江村の交流

在カメルーン日本国大使館

2002年FIFAワールドカップ日韓大会開催時に、大分県の旧中津江村でカメルーンチームがキャンプを行って以来、大分とカメルーンの交流が続いています。

2016年から、大分のベンチャー企業TMT. Japanは、JICAの中小企業海外展開支援事業を活用して、ヤウンデに計16台のバイオトイレ（微生物の力で排泄物を分解する仕組みで、水洗浄や汲み取りが不要なトイレ）を設置しました。同社は、JICAによる支援事業が終了するのを機に、2018年にカメルーンに現地法人を設立し、バイオトイレの現地生産を目指しています。

2017年8月には大分カメルーン友好協会が設立され、同年11月にはカメルーン視察ツアーを実施し、旧中津江村（現・日田市中津江村）村長の坂本休氏ら協会関係者約20名がカメルーンを訪問しました。2018年5月には大分県日田市中津江村でカメルーンの建国記念日祝賀会が開催されるなど、その後も大分とカメルーンとの交流は続いています。

（関連情報）JICA HP

https://www.jica.go.jp/topics/2018/20180828_01.html

（了）